

防災を考える日

～ テーマ「地震発生時の行動を確認しましょう」～

内容

- 1 今月のテーマ
- 2 地震の基礎知識
- 3 地震発生時に取るべき行動

自宅や学校、職場などさまざまな場面を想定し、普段から地震が発生したときに取るべき行動について、イメージしておくことや、訓練することが大切です。



気仙沼市総務部危機管理課

988-8501

宮城県気仙沼市八日町1-1-1

電話番号:

0226-22-3402

FAX 番号:

0226-22-1467

電子メール:

kikikanri@kesenuma.miyagi.jp

今月のテーマ

「防災を考える日」の今月のテーマは、「地震発生時の行動を確認しましょう」です。日本のどこでも大きな地震が発生する可能性があります。いつどこで地震が起きてもその場に応じた行動ができるよう、身の安全を確保するために必要なことについて、皆さんで話し合ってみましょう。

地震の基礎知識

- ◆地震はいつどこで起こるか分かりません。
- ◆日本とその周辺で発生する地震には三つのタイプがあります。
 - ・海のプレートの沈み込みに伴って地下に引きずりこまれた陸のプレートが、引きずりに耐えられなくなり、跳ね上げられるようにして起こる「プレート境界の地震」
 - ・沈み込むプレートの内部に力が加わって発生する「沈み込むプレート内の地震」
 - ・陸のプレートの浅いところで発生する「陸域の浅い地震」
- ◆規模の大きな地震が陸に近い場所で発生すると、地震の強い揺れにより家屋の倒壊や地すべりなどの恐れがあります。また、規模の大きな地震が海域で発生すると、津波の恐れがあります。さらには、地震後の降雨により土砂災害が発生する恐れがあります。
- ◆震度は、ある場所がどのくらい揺れたかを表します。日本の震度は0から7までの数字で決められています。そのうち、震度5と6は弱と強の2つに分かれているので、合計で10段階あります。
- ◆マグニチュードは地震そのものの大きさ、地震の規模(エネルギー)を表します。マグニチュードが0.2大きい地震は約2倍、1.0大きい地震は約32倍、2.0大きい地震は1,000倍のエネルギーを持ちます。

地震発生時に取るべき行動

- ◆自宅にいたら・・・
 - 丈夫な机やテーブルなどの下にもぐり、机の脚をしっかりと握りましょう。慌てて外に出ると危険です。揺れが収まってから、慌てず火の始末を行い、出口を確保しましょう。
- ◆学校にいたら・・・
 - 教室内では、机の下にもぐって落下物などから身を守りましょう。慌てて外に飛び出さず、先生や校内放送の指示に従いましょう。
- ◆職場にいたら・・・
 - 職場では、キャビネットや棚などから離れ、頭部を守り机の下に隠れるなど、身を守りましょう。外へ逃げる時には落下物などに注意し、エレベーターは使わないようにしましょう。
- ◆車の運転中だったら・・・
 - 急ブレーキは事故の原因になります。徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車してエンジンを切りましょう。車を離れるときは、キーを付けたままにしましょう。

※地震の後は、必ず津波に注意しましょう。強い揺れや長時間ゆっくりした揺れをかんじたときは、直ちに高台などの安全な場所へ避難しましょう。